

オーディオ&ホームシアター展 TOKYO
デジタルホームシアターセミナー報告

デジタルホームシアター普及委員会 委員長
鈴木 弘明

デジタルホームシアター普及委員会が発足したのが2009年の春。委員会を構成するWG-1(建築音響)、WG-2(サラウンド再生環境)、WG-3(音響機器)、WG-4(映像—再生環境・機器)、WG-5(インストール)の五つのワーキング・グループ(WG)が、日本にも確実に育ちつつあるホームシアター市場に注目し、シアターの中における“音”の重要性を世の中に訴えるべく、

- (1) ホームシアターが本来持つべき音響・映像面での特性・性能、及び配線、機器相互接続などのインストール全般、更にはインテリアについての“ガイドライン”を策定する。
- (2) ホームシアター事業に携わる人材の育成のために「デジタルホームシアター取扱技術者資格認定制度」を制定し、資格認定のための講座を開講する。講座のテキストとしてはガイドラインを内容としたテキストを創る。

という活動を行ってきている。

デジタルホームシアター普及委員会(以下DHT)の活動の成果を世の中にアピール・発信することを目的として、今年も「オーディオ&ホームシアター展 TOKYO」において、セミナーを開催した。

1. デジタルホームシアターセミナー

今年は二つのセミナーを開催した。会場はいずれも富士ソフトビル5Fのアキバホール。

セミナー1

日時：2011年10月21日(金) 12:45~14:15

セミナー2

日時：2011年10月23日(金) 15:30~17:00

いずれのセミナーも聴講者が80名ほどで、皆、熱心に講師のプレゼンテーションに聴き入っていた。



会場風景

2. セミナーの概要

2.1 デジタルホームシアターセミナー1

タイトル：あなたのリビングルームがホームシアターに！

—音と映像を10倍楽しむためのノウハウ—

「我が家にホームシアターが作れるだろうか？」とと思っている人のための基礎セミナー。リビングルームを素晴らしいホームシアターに作り変えるためのベーシックなノウハウを専門家がわかりやすく伝授する、という内容である。

まず、冒頭にソニー（株）に提供していただいた 3D 映像（ピアノ独奏）を会場の大スクリーンに投影、音は 5.1 サラウンドで再生した。

「家庭でも映画・音楽を 3D 映像、サラウンド音声で楽しめるようになった、あなたの家にも是非ホームシアターを。ホームシアターを作るためのノウハウをこれから音と映像の専門家が伝授いたします」という前口上を DHT 委員長の鈴木弘明が述べた後、三人の講師によるプレゼンテーションが行われた。

● ホームシアター機器入門

パイオニア（株）のスピーカ設計技術者である小谷野進司氏が、ホームシアターにおいて良い音、美しい映像を引き出すための機器の使い方の基本について講義。

ホームシアターの設置場所（リビング？専用ルーム？）、機材の選び方（簡単 VS.本格的）、機器の設置・接続、サラウンド・スピーカの設置（部屋の大きさによる配置の実際）、センタースピーカと画面との関係、AV アンプによるスピーカ設定、TV、レコーダーからのデジタル音声出力設定、などの切り口でホームシアター初心者にとってわかりやすく、かつ有用な講義が行われた。

● スピーカ配置で悩まない！自由なレイアウトで音を楽しむ。

--家庭におけるサラウンド・スピーカの配置許容度に関する実験の結果--

現実の生活空間でもある家庭のホームシアターにおいては制作側で基準としている ITU-R の勧告通りのサラウンド・スピーカ配置が出来ることは稀である。

DHT の WG-2 では、日本の家庭におけるホームシアターを調査し、スピーカ配置について統計的データ処理を行い、5 つの配置パターンに集約できるという結果を得た。これに今後普及が見込まれる 2 パターンを追加し主観評価実験により、ITU-R 配置に比較してどの程度の許容度があるのかについて二年間にわたって調査した結果を主査の沢口真生氏（沢口音楽工房）が発表した。（編集事務局 注記）

家庭においてサラウンド・スピーカの配置が ITU-R の勧告から相当程度ズレていても、サラウンド音場を楽しめる、という非常に興味深い結果がガイドラインとして発表された。

● リビングルームを音の良いホームシアターにするには？

--ホームシアター音場改善入門・建築篇--

ホームシアターでいい音を楽しむためには、シアターが設置されている部屋の建築音響特性が一定レベルに達していなければならない。しかし、お金をかけずに、自分で基本的な建築音響処理は出来るのである。長年にわたって世界各地のレコーディング・スタジオの音響設計を手掛けてこられた豊島政実先生（四日市大学教授）が、長い経験の中から習得された、DIY でやる音場改善のテクニックについて面白く語るセミナーとなった。

2.2 デジタルホームシアターセミナー2

タイトル：ホームシアターを徹底して楽しむ！

—音と映像をとことんチューニング—

DHT 委員会の活動の成果でもある、家庭のリビングルームで音と映像を十分に楽しむためのノウハウについて DHT 委員でもあり、建築音響と映像のエキスパートでもある講師二人に“突っ込んだ”話をしていただく、というセミナーである。

● 映像をとことん追求

ホームシアターも含め、いろいろな映像環境について研究を続け、その成果を評論活動にも活かしておられるオーディオ・ビジュアル評論家の鴻池賢三氏が、家庭のテレビで高品質の映像を楽しむための映像調整を部屋のインテリア・照明、更には節電について考慮しながらレクチャーされた。工夫された映像調整プレゼンファイルを用いての講演内容は、聴講者が実際に家庭で自らが試せる実践的なものであった。

● ホームシアターの建築音響設計

石井伸一郎氏が講師。石井氏は旧松下電器在籍中に、「テクニクス」ブランドのスピーカ・システムやアンプなどの音響機器の設計を担当され、THX社のトム・ホルマン氏と「ホームTHX」の協同開発をされるなど、幅広く活動された。現在は室内音響の研究を行いながら国内の高品質リスニングルーム、ホームシアターの建築音響設計を多数行っておられる。

石井氏は、DHT スペシャリストコースのセミナー受講者のために新たに開発された専用ソフト「ZANKYO」と「SHAON」を用いた残響設計法と遮音測定法について、自ら手掛けられたリスニングルームの実例も紹介しながら講演された。

2.3 DHT、デジタルホームシアター取扱技術者資格認定制度の紹介

上記二つのセミナーの最後にはDHT委員長の鈴木が、DHT委員会の活動、及びデジタルホームシアター取扱技術者資格認定制度の紹介を行った。

DHT委員会の活動によって創りあげられるホームシアター設置のためのガイドライン、そのガイドラインに沿って行われる3コースから成る資格認定のためのセミナーがこれからもうまく噛み合せて進んでいくようにするのがDHT委員会の使命でもある。

3. むすび

今回のオーディオ&ホームシアター展、一般のユーザの中にホームシアターに強い関心を持ち、自分でもホームシアターを持ちたい、作りたい、と思っている人が確実に増えているということを感じさせるものであった。

UDXビルの展示スペースにJASが設営した「ホームシアター相談コーナー」を訪れてくれたユーザの中には、自分の家に設置を計画しているホームシアターの建築図面を持参し、熱心に音響面でのアドバイスを求める人もいた。

今後も、オーディオ&ホームシアター展においては、DHTとしてセミナーを開催し、「ホームシアター相談コーナー」で、ユーザの生の声を聞いていきたい。



UDXビル内に設置した相談コーナー

(編集事務局 注記)

DHT普及委員会 WG-2の「サラウンドスピーカの家庭再生配置における許容度調査」報告書は今月号から連載で掲載させていただきましたのでご覧下さい。